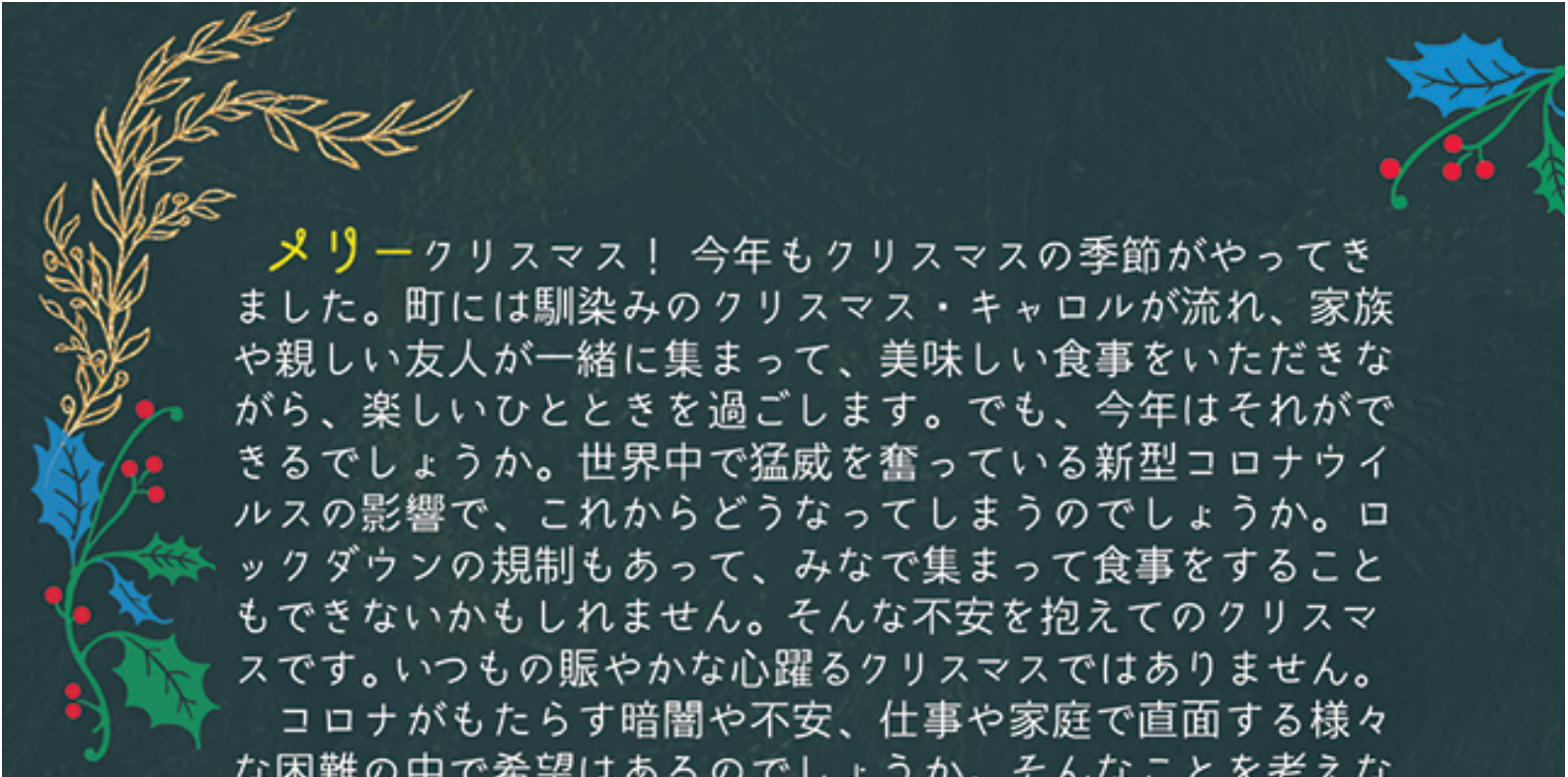




コロナの中の
クリスマス

Christmas in time of Corona





メリークリスマス！今年もクリスマスの季節がやってきました。町には馴染みのクリスマス・キャロルが流れ、家族や親しい友人と一緒に集まって、美味しい食事をいただきながら、楽しいひとときを過ごします。でも、今年はそれができるでしょうか。世界中で猛威を奮っている新型コロナウイルスの影響で、これからどうなってしまうのでしょうか。ロックダウンの規制もあって、みなで集まって食事をするのもできないかもしれません。そんな不安を抱えてのクリスマスです。いつもの賑やかな心躍るクリスマスではありません。

コロナがもたらす暗闇や不安、仕事や家庭で直面する様々な困難の中で希望はあるのでしょうか。そんなことを考えながら、クリスマスの出来事を見ていきたいと思います。

みなさんは、クリスマスというと、どんなことを思い出しますか。プレゼントやパーティーですか。なぜクリスマスをお祝いするのでしょうか。



聖書には、2000年前の歴史的出来事として救い主イエス・キリストの誕生の時の様子が詳しく書かれています。

「マリアは月が満ちて、男子の初子を産んだ。そして、その子を布にくるんで、飼葉桶に寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。」(ルカの福音書2章6-7節)

イエスの両親、マリアとヨセフはローマ皇帝から住民登録せよとのお達しがあったため、ヨセフの出生地のベツレヘムに戻っていました。ところが、「宿屋には彼らのいる場所がなかった」のです。「宿屋」とありますが、ここでは訪れるお客様をもてなすためのゲストルームという意味で、そこにお迎えする場所も余地もなかったということです。これは、何より、人々の心の状態のことを言っています。いつも自分のことで頭がいっぱいで、救い主が来たのにそれに気づかない、お迎えする心もないということを表しています。

救い主の誕生の知らせを聞いて、真っ先に駆けつけてきたのは、野原で夜番をしていた羊飼いたちでした。

羊飼いは、当時貧しく、人々から最もさげすまれていた職業でした。



救い主誕生の知らせは、この世の権力者や裕福な人たちではなく、貧しく社会から虐げられ、夜寝る間もなく働いていた彼らの所に、神自らが御使いを送り、最初に伝えられたのです。

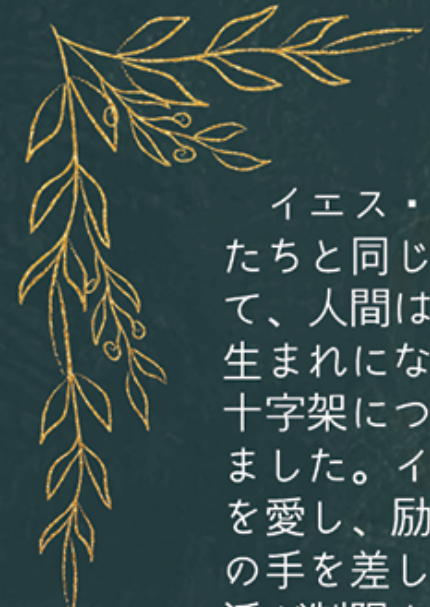
「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。」(11節)

お告げを聞いて羊飼いたちは「さあ、ベツレヘムまで行って、主が私たちに知らせてくださったこの出来事を見届けて来よう」(15節)と言って、実際に出かけてみると、事実、告げられたとおり、飼葉桶に寝ている赤子のイエス・キリストを見つけます。そして「羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて御使いの話のとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った」(20節)とあります。神をあがめて賛美した、つまり地上で初めて救い主イエス・キリストを礼拝したのです。

これが、イエス・キリストの誕生をお祝いした最初のクリスマスです。こうしてみると、最初のクリスマスは、賑やかで、盛大なパーティーをしていたという感じではなかったことがわかります。イエス・キリストは、ベツレヘムというさびれた寒村の、しかも汚くてとても人間が住むようなところではない、異臭ただよう家畜小屋で、貧しい夫婦のもとに、さびしく生まれてくださったというのが本当のところですよ。何も持たずに、謙虚に、私たち一人一人に寄り添うために、お生まれになりました。

「キリストは、神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。人としての姿をもって現れ、自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました。」(ピリピ人への手紙2章6-8節)

神であるキリストがこの世に人として生まれた事を端的に表している聖書のことばです。今生きる私たちにとってどのような意味を持つのでしょうか。



イエス・キリストは、私たち人間の苦しみやさびしさを、私たちと同じようにすべて経験された上で、私たちに寄り添って、人間はどう生きるべきかの道を示してくださる方としてお生まれになりました。そして、私たちに救いを与えるために、十字架について、私たちの罪を代わりに負って死んでくださいました。イエス・キリストは、人知れずさびしく苦しむ私たちを愛し、励まし、毎日を力強く生きるように勇気を与え、救いの手を差し伸べるために来てくださいました。コロナで日常生活が制限され、愛する人に会えないさびしさや先が見えない不安を抱えている人、失業や経済苦に直面している人、愛する人を亡くして悲しみにくれる人、持病の悪化などで苦しむ人、その一人一人に寄り添うためにいらしてくださったのです。

そして、コロナ禍の中で、私たち人間が一番恐れている死をも克服できるようにするために来てくださいました。イエス・キリストを信じる者が、十字架によって罪を赦されて、永遠のいのちを生きるためにいらしたのです。ここに私たちの希望があり、救いがあります。それゆえ私たちは、毎日を恐れることなく精一杯、生きていけるのです。

今年のクリスマスは、いつもと違って、ずっと慎ましやかなお祝いになるかもしれません。でも、歌って笑って心から喜びましょう。私たちに与えられている神の祝福を存分に楽しみましょう。しかも、この祝福はクリスマスだけにとどまるものではありません。神はあなたを愛しています。神を信じる者に限りなく、祝福と恵みを与えてくださいます。私たち一人一人に用意されている特別な人生があります。イエス・キリストを救い主と信じる人すべてに、この世の限られたものでなく、永遠の中で与えられる素晴らしい祝福があります。

「見よ、わたしは戸の外に立ってたたいている。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしはその人のところに入って彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。」
(ヨハネの黙示録3章20節)

このクリスマス、あなたの心のゲストルームにイエス・キリストを救い主としてお迎えしませんか。

To find out more: www.sljc.co.uk